

# イネ縞葉枯病抵抗性中生水稻良食味品種「にじのきらめき」を準奨励品種に採用しました

農業総合センター農業研究所

## 【研究の概要】

近年は温暖化に伴う水稻登熟期間の高温化によって、「コシヒカリ」を初めとする県内主要品種に白未熟粒が多発し、玄米品質低下の要因となっています。また、県西地域を中心に、イネ縞葉枯病の発生が問題となっており、抵抗性品種を導入することで病気の拡大を防ぐことが必要です。

農業研究所ではこれら課題を解決する品種の一つとして、高温耐性およびイネ縞葉枯病抵抗性を有する「にじのきらめき」が有望であると考え、県内各地における栽培特性等を明らかにし準奨励品種として採用しました。

## 【研究内容】

- ① 農研機構中日本農業研究センター北陸研究拠点（新潟県上越市）で育成された水稻品種「にじのきらめき」の栽培特性について5年間県内6か所で調査しました。
- ② 県内各地で栽培した「にじのきらめき」の収量、品質、食味等について調査しました。



登熟期の「にじのきらめき」

## 【研究成果】

「にじのきらめき」を「コシヒカリ」と比べた際の特徴は以下の通りでした。

- ① 稈長が約20cm短く、倒れにくいことが分かりました。出穂期は、同じか、1日遅く、成熟期は、3～6日程度遅いことが分かりました。
- ② 収量（精玄米重）は、102～125%（614～697kg/10a）で多収でした。
- ③ 玄米千粒重は2.4～2.9g重く、大粒でした。玄米品質は優れ、農産物検査等級はいずれの年次・試験地においても1等と判定されました。食味評価は同等でした。



「にじのきらめき」 「コシヒカリ」  
成熟期頃の圃場での草姿（R2 水戸市、多肥栽培）



「にじのきらめき」 「コシヒカリ」  
玄米の外観 各40粒

## 【将来の展望】

令和3年度の「にじのきらめき」作付予定面積は県西地域を中心に約450haです。「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培方法の確立を目指し、令和3年度より3年間の計画で栽培試験を開始しています。

今後、イネ縞葉枯病の発病が多い県西・県南地域を中心に作付を推進していく予定です。

生産現場において高品質安定生産に向けた指導場面での活用が期待できます。